

Alliance of Digital Humanities Organizations

Digital Humanities 2012 発表論文募集のお知らせ

開催地：ハンブルク大学

2012年7月16-22日

<http://www.dh2012.uni-hamburg.de/>

概要ページ：2011年11月1日 (GMT午後11時59分)

<https://secure.digitalhumanities.org/>

要注意：締切りは11月1日厳守です。DH2012に投稿しようとするなら、大会Webサイトの電子投稿フォームから11月1日までに投稿してください。

発表には以下のものが含まれます。

- ・ポスター（概要論文は1500語まで）
- ・ショートペーパー（概要論文は1500語まで）
- ・ロングペーパー（概要論文は1500語まで）
- ・パネルを含む複数ペーパーセッション（要旨は500語まで）

発表論文募集のお知らせ

I. 募集の概要

国際プログラム委員会はDigital Humanitiesのあらゆる側面に関する750語から1500語までの概要論文の投稿を募集します。ここでのDigital Humanitiesは、情報工学から人文学の研究教育までを含んでいます。分野横断型の研究成果や、分野における新しい展開に関する投稿は特に歓迎いたします。そして、2012年大会のテーマである「Digital Diversity: Cultures, languages and methods」に関わる投稿を奨励いたします。

Digital Diversityというテーマを念頭に置きつつ、特に、新たに登場しつつあるDigital Humanitiesのコミュニティについて発表する研究者、デジタルアートやデジタルミュージック、spatial history、public humanitiesの研究者からの投稿を歓迎します。大会のWebサイトは<http://www.dh2012.uni-hamburg.de/> となっており、今後数週間以内に内容を充実させていく予定です。プログラム委員会は多様なプログラムを目指していることから、この大会での発表に関しては、同一の著者やグループによる複数の投稿は原則として認めない予定です。

投稿は、例えば、Digital Humanitiesの以下のような側面に関するものが望ましいです。

- データマイニングに関する研究
- 情報デザインとモデリング
- ソフトウェア研究
- デジタルメディアを通じて可能となる人文学研究
- デジタル小説、public humanitiesを含む、文学、言語学、文化研究や歴史研究におけるコンピュータを利用した研究とアプリケーション

- 現代の学術研究における分野横断的な側面。たとえば、テキスト分析やコーパス言語学、言語処理、言語習得など。
- 人文学に関するデジタル資料の作成とキュレーション
- アカデミックなカリキュラムにおけるDigital Humanitiesの役割

大会のテーマの精神において、そして、多言語・多文化主義に関するADHO運営委員会との協議に基づき、特に、多言語主義と多文化主義を涵養していくにあたっての、デジタル技術を用いた手法とモデルの潜在的な可能性と影響力に関する投稿や、言語文化の多様性という観点からDHに対して提示される課題や可能性についての投稿を募集します。デジタル技術を用いた手法で多言語・多文化主義的な統合の成功例を描く事例研究としては、危機に瀕した言語文化、あるいは、よく知られていない言語文化やマイノリティの言語文化に関する投稿は特に歓迎です。特に評価された論文は、多言語主義・多文化主義に関する今後のADHOの出版物の特集において掲載する資格が与えられることがあります。

DHによってカバーされるトピックの範囲は、学会誌である、Oxford University PressのLiterary and Linguistic Computingも参考になります。

締切りは2011年11月1日です。

ポスター、ショートペーパー、ロングペーパー、そして、セッションの提案のプログラム委員会への投稿についてのデッドラインは、**2011年11月1日**です。締切りの延長はないので、我々は、投稿フォームが準備される前から投稿の準備を開始することを強くお勧めします。発表者は、**2012年2月1日**までに、採択結果が通知される予定です。電子投稿フォームは**2011年10月初頭**から利用可能になる予定です。投稿についての詳細に関しては以下を参照してください。

大会前の集会とワークショップについての募集は、これとは別に、プログラム委員会から、すぐに通知されます。これに加えて、審査無しの、あるいは業者のデモについての提案は、大会運営委員会のJan Christoph Meisterと、なるべく早く、直接交渉という形になります。メールアドレスは、jan-c-meister@uni-hamburg.deとなっています。他のすべての投稿は、上述の、大会Webサイト上の電子投稿フォームを通じてプログラム委員会に投稿してください。

大会全般についてのさらなる情報については、大会Webサイトを参照してください。
<http://www.dh2012.uni-hamburg.de/>

II. 投稿論文の種別

プログラム委員会への投稿論文は四種類となります。(1)ポスター発表(2)ショートペーパー発表(3)ロングペーパー(4)セッション(3つのペーパーもしくはパネルセッション)。投稿の種別は申込み内容に沿って決まりますが、委員会は、応募論文の数と概要論文の性質に基づいて、異なるカテゴリで採択する場合があります。このことは、近年の論文募集でのきわめて多くの応募への対策のためであり、また、すべての申込みは査読されることから、どの発表の種別でも重要さは同じであるという認識に基づいています。

ペーパーとポスターは、英語か、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語で提出できます。

1) ポスター発表

750語から1500語の概要論文を投稿してください。ポスター発表には、上述のような、コンピュータ技術、プロジェクトのデモ、ソフトウェアのデモ等、論文募集のあらゆるトピックについての、進行中のあらゆる研究活動が入ります。ポスター発表とソフトウェアのデモは、対話的であることを意図しており、参加者と一対一でアイデアを交換する機会と、同じトピックについて深い関心を持つ人々と自らの研究活動について詳細に議論する機会とを発表者に提供しようとしています。発表者には、自らの活動を展示するためのボードが用意され、コンピュータ接続が利用可能であり、そして、URLや名刺、さらなる詳細情報を載せた資料などを配布することが期待されます。ポスターは、大会期間中のいくつかの時間帯に展示される予定です。そして、独立したセッションの枠がポスター発表のために設けられる予定です。このとき発表者は自らの研究活動を説明し質問に答えるためにその場にいないわけできません。ソフトウェアやプロジェクトのデモに関しては、また別の時間が用意されるかもしれません。ポスターセッションは、**Digital Humanities** において行われているもっとも重要で革新的な研究活動を展示することになるでしょう。このような認識に基づき、プログラム委員会はベストポスター賞を設ける予定です。

2) ショートペーパー

これは新しいタイプのプレゼンテーションです。1時間のセッションで5つまでのショートペーパーを可能とするもので、1ペーパーあたり1つか2つの質問の時間をとるために、各発表に与えられる時間は10分のみです。

ショートペーパーの投稿論文(750—1500語)は、比較的短い実験結果や進行中の研究活動の報告、そして、新たに着想され、開発の初期段階にあるツールやソフトウェアの報告に適しています。プログラム委員会の依頼により、ショートペーパーは、ショートペーパーとポスターセッションの両方で発表することになる場合もあります。さらに発展的な研究やプロジェクトに関しては、発表者は、ロングペーパー発表に申し込むことを考慮してください。

3) ロングペーパー

ロングペーパーのための投稿論文(750—1500語)は、内容的に充実し、完了しており、これまでに公表されたことのない研究の報告に関するもの、意義深く新しい方法論やデジタル資料に関するもの、そして(あるいは)、厳密に理論的な、思弁的な、あるいは批評的な議論に関するものです。個々のペーパーは、発表20分、質疑応答に10分が割り当てられる予定です。

新しいコンピュータ上の手法やデジタル資料の開発についての投稿論文は、人文学での教育研究にその手法がどのように応用されているのか、研究上の課題を形成し取り組むにあたってそれらのインパクトがどのようであったか、を示さねばなりません。そして、人文学においてそれらの手法の応用に関するある程度の批判的な評価を盛り込んでいなければなりません。人文学における特定のアプリケーションやデジタル資料に特化したペーパーの場合には、その問題についてのコンピュータベースのアプローチと同様に伝統的なアプローチについても言及しなければならず、そして、用いられているコンピュータ上の手法についてのある程度の批判的な評価を盛り込んでいなければなりません。すべての投稿論文は、関連する文献資料を参照していなければなりません。

4) 複数ペーパーセッション (90分) は以下のいずれかとなります。

三つのロングペーパー。セッションの企画者は、セッションのトピックを説明する500語の文章を投稿し、個々のペーパーについては750–1500語の概要論文を含んでおり、そして、個々の著者はセッションに参加する意思を表明しなければなりません。

あるいは、

4–6名の登壇者によるパネル。パネルの企画者は、パネルのトピックの説明、パネルの運営の仕方、すべての登壇者の名前、登壇者がセッションに参加する意思があることの表明を述べる750–1500語の概要論文を投稿しなければなりません。

セッションの投稿論文の締切りは、ペーパーの投稿論文の締切りと同様です。つまり、**2011年11月1日**です。

セッションでのペーパーについての注意点：特別セッションの一部として投稿されるペーパーは、個別評価のために別のカテゴリに投稿してはいけません。セッションの投稿者は、三つのペーパーを一つのセッションにまとめることの正当性について説明しなければなりません。つまり、ペーパーを個別に扱うのに比べて、特別セッションとすることで価値が高まるということを説明する必要があり、特に、その特別セッションが大会のテーマにどのように取り組んでいるかということに関しても説明する必要があります。

III. 投稿論文の形式

すべての投稿論文はオンラインの投稿フォームを用いて電子的に投稿されねばなりません。それは、大会のWebサイトで、**2011年10月1日**に開設されます。以前に、そのconfToolシステムを使って投稿したり査読をしたりしたことがある人は、新しいアカウントを作るのではなく、既存のアカウントを使ってください。もしユーザ名やパスワードを忘れてしまった場合は、Paul Spence宛に連絡してください。

IV. 大会会場についての情報

エルベ川に面したハンブルクは、市内に1800万人の住民がおり、かつてのハンザ同盟の商業都市は、ドイツで第二の大都市になっています。ハンブルクの特徴は、港と、国際志向と世界市民的なスタイルです。

ハンブルク大学は1919年に設立されました。今日では、人文学部には10000人以上の学生がいます。設立以来、ハンブルク大学は外国語と外国文化に強く着目し続けてきました。その

ような多様性を育成し探究することは、人文学の重要な仕事であり、そして、理論や手法、ツールをこの方面に提供することは、Digital Humanitiesへの非常に興味深い挑戦をもたらします。DH2012での”Digital Diversity”についての議論に皆さんが参加することを願っています。そして、ハンブルクでお会いできるのを楽しみにしています。

V. 若手研究者のための奨学金

ADHOにより、大会で発表する人には、若手研究者のための多少の奨学金が利用可能です。奨学金への応募を希望する若手研究者は、秋以降に、ADHOのWebサイトのガイドラインを、ご覧ください。

この件に関する詳細は、数週間以内に公表される予定です。

VI. 国際プログラム委員会

Susan Brown (SDH-SEMI - Vice Chair)

Arianna Ciula (ALLC)

Tanya Clement (ACH)

Michael Eberle-Sinatra (SDH-SEMI)

Dot Porter (ACH)

Jan Rybicki (ALLC)

Jon Saklofske (SDH-SEMI)

Paul Spence (ALLC - Chair)

田畑智司(ALLC)

Katherine Walter (ACH)

Thanks for the translation of the call go to **Kiyonori Nagasaki, International Institute for Digital Humanities, General Incorporated Foundation, Tokyo, Japan.**